

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

所在	世田谷区船橋6-25-1-1F
園名	世田谷区立希望丘保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

自然を通して『命のつながり』『循環と再生』を体感する。

<テーマの設定理由>

自然環境の充実に取り組み、今年度で7年目となる。子ども達が身近な自然に親しみ、植物や生き物の生態に興味を持ち、知りたいという気持ちが高まっている中で、一歩進んで命のつながりに気付く経験ができるような環境作りをしたいと考えたから。

2. 活動スケジュール

1回(6月) このはなな〜んだ？

・子どもたちが興味や関心をより深められるように、のっばらや園庭にある植物の名前をその季節毎にタイムリーに書き替えられる表示を付け、のっばらグラム(保護者向けの園の自然についての発信)を目立つようにブラックボードに掲示する。親子での会話が広がることをねらい、よりのっばらへの興味関心が深まるようにしていく。

2回(7月) お世話をしよう！

・各クラスのプランターに子ども達と絵を描いたり、色を塗ったりしてオリジナルデザインのプランター制作を行う。自分たちのプランター(栽培物や野草)がわかり、生長などに関心が高まるようにしていく。自分たちのもの、違うクラスのもの、のっばらなど様々な変化に気づき、探求心が揺らぐような働きかけができるようにしていく。

3回(8月) 夜ののっばらを知ろう！

・夜ののっばらに集まる虫たちを知るために夜行トラップを設置し、ビデオカメラで撮影した。時期が終わりころだったこともあり、蛾やカナブンなどの映像しか撮れなかった。しかし、上映会をすることで子どもたちは興味関心を広げていた。トラップにはヤモリが入っていて「なんでヤモリが!？」という探求に繋がっていた。次年度は早い時期に夜光トラップを仕掛け、子どもたちが大好きな昆虫が集まることを狙って行っていく。

4回(8月) 土の不思議

土と米ぬかを使用し、バケツコンポストを作ってみると、中に入れたはずのみかんの皮がなくなり子どもたちはとても驚いていた。なんで消えるのかという探求心とともに、土づくりに興味関心をしめしていた。園庭にいるミミズを入れた土づくりや大きいコンポストを使用しての土づくりはできなかった。長期的な計画をもって、やっていく必要がある。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・コンポストを組み立てて活用できるように設置する。野菜の皮等を用いて堆肥作りを体験できるようなセットし、4 歳児の活動に取り入れる。
- ・書き替えられる表示、ブラックボードを活動して、視覚的に興味を引くよう工夫する。
- ・新しい白いプランターに各クラス絵の具で自由に描き、自分たちの育てている植物に愛着を持てるような活動、環境作りを行っていく。
- ・緑のアーチを作るための支柱、植物を用意し、担当が中心となって進めていった。
- ・夜行性トラップ（投光器、虫トラップ、定点カメラ、白い布）を設定。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ① この花はなんだろう？この木の実はどこから？ 園庭の草花の名前を知ろう！！
- ② 自分たちの草花を自分たちで育てよう
- ③ 夜ののっばらには何がいます？集まる虫たちを見てみよう
- ④ みかんの皮が消えた！？コンポストってなんだろう？ 仕組みを知り、体験してみよう！

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- ① 保育士が表示を書き込んだり、セットする様子を見て、「これは〇〇だね」「なんかツルが伸びてきた～」と嬉しそうに観察したり、それまでよりも親しみをもって水やりをしていた。
「この芽はどんなふうに大きくなるのか」「どんな花が咲くのかな？」と生長する様子にも興味が高まり、のっばらワゴンから図鑑を出してきて、調べようとする姿も見られた。



設置したブラックボードの前で最新版ののっばらグラムを親子で眺めながら会話を楽しむ様子も見られた。



② 「あおぐみのおはなだもんね！」と子ども同士で声を掛け合い、みずやりをする姿や、「これはなにぐみ？」と他のクラスのプランターにも興味をもち、観察する姿が多く見られるようになった。



③ 夜の園庭の様子や知っている虫が夜にも現れることに、「いまのなんかとんでた!？」「カナブンだ!」と歓声を上げて喜んでいた。



バナナトラップでは

発酵した匂いをかいで驚く姿がありましたが、よく見ると中に入った虫を追いかけてヤモリがいるなど思わぬ発見もあり



「なんでヤモリがいるんだ!？」「なかにはいた虫をたべにきたのかな?」とそのあとはしばらくヤモリの動きを観察していました。

④ あったはずの果物の皮がなくなっていることに気づくと「なんできえたんだろう?」「まほうかな?」と頭の中は不思議でいっぱいになり、「次は何入れてみる?」と探求心に繋がりました。「とぎ汁も使えるなら調理室との連携にもつなげられるかもしれない」など、職員からも活動の新たなアイデアが生まれています。



5. 振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

自然物をそのまま放置しているよりも、子どもの目線に合わせて整理され、表示等の視覚で注意を引き、働きかける方がより関心も高まり、主体的に触れる姿が多くなり、知りたいという探求心が刺激されると感じた。ねこのプレートは書き替えられるタイプのものでタイムリーにその時の様子や子ども達に訴えかけたいことを書くことができるので、保育士もその時の様子を意識するようになり、それらを通して子ども達に何を伝えようかを考えるようになったと思う。のっばらグラムについてもブラックボードに掲示する形になり、定期的に途切れずに発信するためにはどうすればよいかを職員間で話し合いながら進めていけたと思う。

バケツコンポストを子どもたちと作り、消えた果物の皮に驚きや疑問を持ち大きな関心に繋がっていた。小さな疑問や発見から、探求や理解を広げ、園庭のコンポストに繋げていきたい。子どもたちに“命”や“循環”など言葉で伝えてはいないが、それぞれに感じるものの違いはあった。

1年では完結できないテーマでもあるので、コンポスト・夜行トラップ、表示などは引き続き次年度以降もやっていきたい取り組みである。